

PRAEVIDENTIA DAILY (12月25日)

昨日までの世界：ポンドがアウトパフォーム

昨日は、欧米市場が休場か短縮取引が多い中で総じて小動きだったが、ドルが前日の軟調から転じて概ね強含みとなった一方、ポンドはモーゲージ承認件数の予想比上振れもあって上昇し、対ドルでも堅調となった。ドル/円相場は、東京時間朝方にドルが対主要通貨で強含みとなる中で、104.41円と日中高値をつけ12月20日の高値である104.64円に迫る水準となった。その後軟化する局面がみられたものの104円台を維持し、NY時間にかけては米11月分経済指標が軒並み予想を上回ったことから下支えされたが、米長期債利回りの上昇や米株高ほどにはドルは続伸しなかった。

米11月分経済指標では、米耐久財受注のうち設備投資の先行指標とされるコア資本財受注が前月比+4.5%、前年比+7.4%、GDP算出に用いられるコア資本財出荷も前月比：+2.8%、前年比+2.8%と市場予想を大きく上回った。また、新築住宅販売件数も46.4万件と市場予想（44.0万件）を上回り、前月計数も44.4万件から47.4万件へ上方修正されるなど、全体として非常に良好な内容となった。

他方、ポンドもアジア時間は全般的なドル強含みを受けて対ドルで軟調となっていたが、英11月モーゲージ承認件数が4.5044万件と、前月および市場予想を上回ったことから大きく反発し、対ドルで1.6382ドルへ、対円ではドル/円の上昇も手伝って170.85円へ上昇、19日早朝の高値である171.20円に迫る水準となっている。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.1	+0.01	+0.01	+0.00	+0.05	+0.05	+0.00	+0.3	+0.1	+0.3	+0.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.1	-0.01	+0.00	+0.01	-0.04	+0.01	+0.05	+0.1	+0.3	+0.3	+0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.1	+0.00	+0.01	+0.01	-0.04	+0.01	+0.05	+0.2	+0.3		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.2	-0.02	-0.01	+0.01	-0.08	-0.03	+0.05	+0.3	+0.2	+0.3	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.2	-0.02	-0.01	+0.01	-0.06	-0.01	+0.05	+0.3	+0.2	+0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.2	+0.00	+0.01	+0.01	+0.01	+0.05	+0.04	+0.3	+0.3	+0.3	

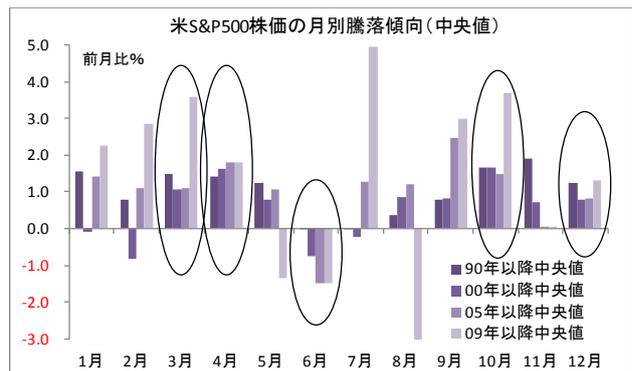
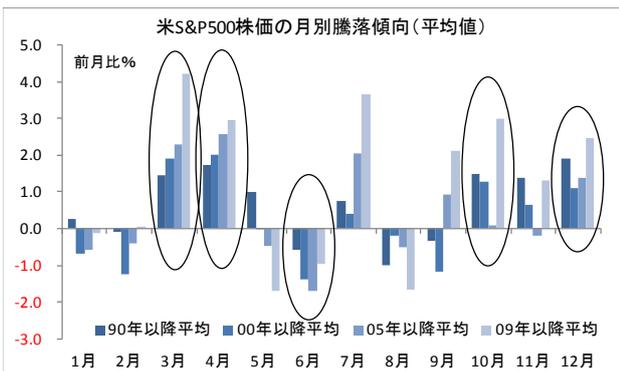
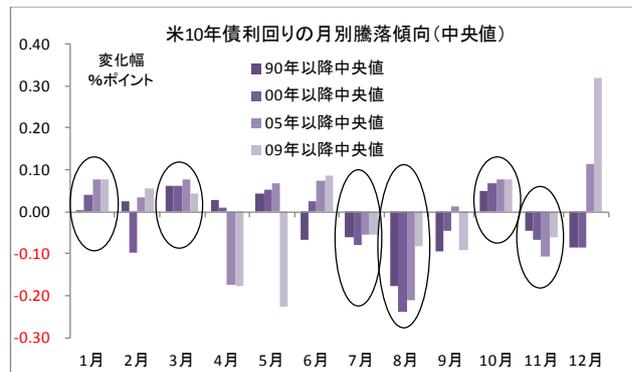
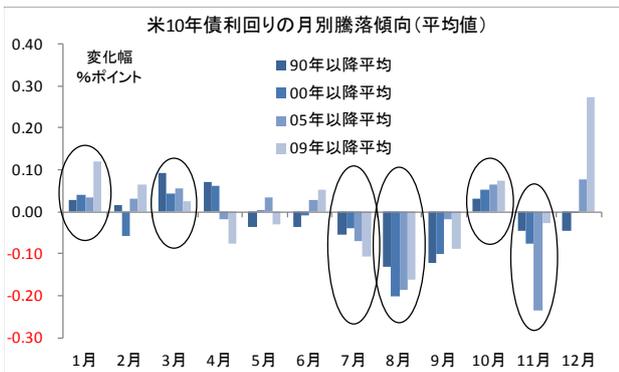
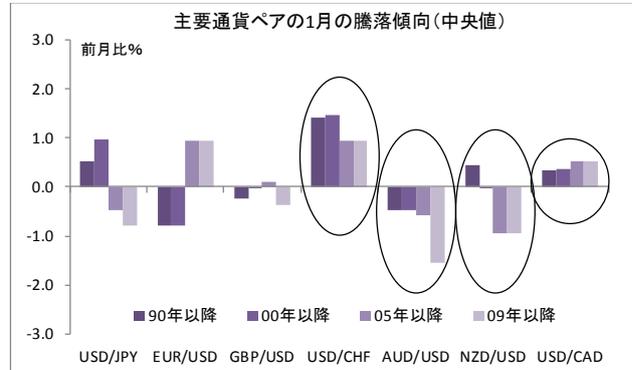
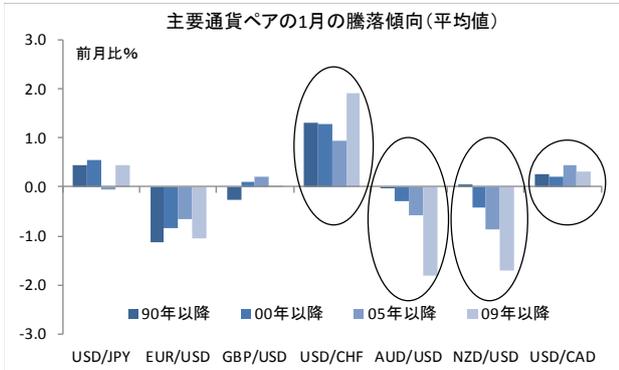
(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：1月のドルへの季節的追い風はまた吹くか

本日もクリスマスで欧米市場の休場が多い中、相場材料も少なく、黒田日銀総裁講演（13：00）くらいしか予定されていない。こうした中でドル/円は年初来高値である104.64円を上抜けしていくモメンタムは出にくいとみられ、堅調は維持しつつも横ばい圏内の動きとなろう。

このため、やや気が早いですが1月の動きについて、過去1990年以降の月間変化率をみると、1月は主要通貨のうち、ドル/スイスフランの上昇傾向が比較的明確で、平均値でも中央値でも1%かそれ以上の上昇傾向がある（下図を参照）。また、豪ドル、NZドルやカナダドルに対しても、米ドルは上昇傾向がみられる。

この間、米国の株価や10年債利回りについても同様に月毎の変化傾向をみると、「1月効果」と言われる株価の1月初の上昇傾向は月末値ベースではあまり強くみられず、むしろ米長期債利回りは10bpsに満たないものの上昇傾向が窺われ、(他国の利回りも連動して上昇する可能性も高いが)1月は米長期債利回りの上昇に下支えされてドルが一部通貨に対して上昇し易くなっている可能性が示唆される。通常米長期債利回り(そして通常殆ど米国サイドの利回り変化によって動く米日金利差)との連動性が高いドル/円では明確な1月の上昇傾向が窺われていないが、米量的緩和縮小継続からくるドル高傾向が継続するのであれば、ドル/円もドル/フランと並んで105~108円へ上昇するチャンスがあるだろう。



(注) 平均値はある年に大きな変化(異常値)がある場合にそれに引っ張られ影響される面が大きいことから、異常値の影響を受けにくい中央値と両方でみて、長期(90年以降)でみて短期(09年以降)でみて一貫した方向性が示されていれば、季節性が存在する可能性が高いとみている。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641